



甲佐高校クライミング部 Kosakoko Kuraimingubu

〔熊本県立甲佐高等学校〕

甲佐高校クライミング部/県内の高校で唯一のクライミング部。同部に所属する部員が10月に行われる国民体育大会かごしま国体へ出場する。

高い壁を乗り越えた先に 見せる生徒たちの成長

「スポーツクライミングは楽しい競技ですが、さまざまな要素を持つ複雑な競技でもあります。生徒たちが身体だけでなく頭も使い考えながら失敗を繰り返す。そのなかで

いろいろな経験を積み、あきらめない心と考える力を育て欲しい」と話すのは甲佐高校クライミング部で監督を務める藤坂正史教諭(熊本市)。スポーツクライミングは、

自分の手足とホールドと呼ばれる突起物だけを頼りに、反り立つ壁を登っていく競技。高校生の大会では、高さ約5メートルの壁の課題を制限時間内にくつ登れるかを競う「ボルダリング」、制限時間内に高さ約15メートルの壁のルートの高さまで登れるかを競う「リード」の2種目。東京オリ

ピックから正式競技として採用され、注目が高まっている。

同部に所属する後藤楓弥選手(高校1年・熊本市)は、熊本県代表として7月に開催された国民体育大会第43回九州ブロック大会スポーツクライミング競技でチーム総合2位となり、10月に開催されるかごしま国体に出場する。

後藤選手はさまざまなスポーツを経験するなかで、小学校5年生の時にクライミングに出会い、その魅力に取りつかれた。「何度もトライし、登りきった時の達成感がすごく、すぐに夢中になりました」とクライミングを始めたきっかけを話す。

甲佐高校に入学したのも、県内唯一のクライミング部があったことが大きかったという後藤選手。「この競技は、メンタルが大きく影響するので、大会での仲間の声掛けが大きな力になります。監督や部員の皆さんと良い雰囲気

活動できていますので、本当にこの高校、そしてクライミング部に入ってよかったなと思います」と笑顔を見せる。

藤坂監督は「生徒たちには、自発的に競技に取り組み、チャレンジ精神を持って、挫折も達成感も両方を体験してもらいたい。クライミングは達成感をすぐ持つ競技だと思つので、難しい課題をクリアした時に『自分もやれるんだ』という自信をつけてくれたらいいなと思います。それが後々、彼らの人生にも何か役に立つと信じています」と彼らの明日を見つめる。



▲甲佐高校でボルダリングを練習する部員たち(左)と熊本県立総合体育館でリードを練習する後藤選手

